

子どもの主体的な学びを促す授業づくり

～友達とかかわりながら、主体的に学習に取り組む子どもを目指して～
新潟市立内野小学校

1 学校の概要

本校（児童数 894 人）は、JR 越後線内野駅の目の前にあり、創立 148 年を迎えた歴史のある学校である。春になるとグラウンドには桜が美しく咲き誇り、人々の目を楽しませる花見の名所としても有名である。

本校は、「やさしさあふれる“さくら学校”」を合言葉に、「いじめ・不登校の未然防止・解消」「特別支援教育の充実」を中核に据えて教育活動を展開している。そして、「自分とは違う個性を認め合い、やさしい言葉が飛び交う学校」を目指している。

2 N I E 実践のねらい

本校の子どもは、C R T 学力検査で、学校全体としてほぼ全国平均並の数値を示し、基礎的・基本的な知識・技能が定着していることが伺える。全国学力・学習状況調査においても、全国の平均より高い数値を示している。

しかし、新潟市生活・学習意識調査の結果からは、「授業で、自分の考えを進んで伝えています」の項目において、市平均と比較して－8.1 ポイントという弱さが見られた。つまり、自分の考えを進んで伝えることに課題があるということである。考えを伝えることができない子どもたちの間には、かかわりも生まれない。

そこで、自分の考えを形成し、それを交流させていくための手立てとして、「新聞活用」が有効であると考えた。新聞のよさは、物事を様々な立場や視点から多面的に考えることができるというところにある。

そして、授業を通して、「友達に考えを伝える楽しさ」「自分の考えを分かってもらえる楽しさ」「友達と共に考え、よりよく分かったという楽しさ」を味わわせたい。これらの楽しさを子どもたちに味わわせるために、「友達との協働的な学び」を進めていくことにより、友達のよさに気付いたり、友達のために自分の力を生かして自己有用感を高めたりすることができると思う。そのことにより、「学校は楽しい」「授業は楽しい」「教室には自分を認めてくれる仲間がいる」という思いをもたせたい。

N I E を実践することにより、本校が目指す「やさしさあふれる“さくら学校”」の実現につながっていくはずである。

また、昨年度の研修に引き続き、当校の全ての子どもが、学習課題の把握から解決・まとめ・振り返りという一連の学習過程を主体的に取り組みやすいように設定した授業フレームワーク（内野プラン）を継続する。どの教室でも板書に構造プレートを用いることにより子どもの主体的な学びを促していく。

学習過程を「課題把握」「自力解決」「考えの明確化」「考えを高める」「まとめ」と捉え、それぞれに目指す子どもの姿を設定し、それを引き出すための視点を以下に記す。

授業フレームワーク（内野プラン）

学習過程	子どもの姿	子どもの姿を引き出すための視点	構造プレート
課題把握	「なぜだろう・やってみたい」という思いをもつ。 これで課題が解決できそうだという見通しをもつ。	主体的な学びを生む課題となっていたか。 ・学年や段階・系統に応じた 学習内容 が明確になっているか。→内容性 ・「友達の考え」「予想」「感覚」「既習」とのずれや比較による 問題意識 が生まれたか。→情意性 ・ 単元学習 におけるめあてが本時とかかわっているか。 ・ずれを集約し、学習者全員の 課題意識統一 がされたか。→集団性 ※ 対話的に学びたくなる 課題であるか。 ※ 多様な解決 を生み出す課題であるか。 ※解決の 見通しを共有 することができたか。	(問題) 課題 見通し
自力解決	自分（グループ）の考えや方法を一つ以上もつ。	自分なりの考えや方法をもたせる手立てがあるか。 ・ 既習事項 を生かして考えさせる手立てがあったか。 ・ 言葉、グラフ、データ、図、表、記号等 を用いた解決をさせたか。 ・ 場の工夫 や、 用具を用いた解決 をさせたか。 ・自力解決の 時間の確保 ができたか。	考える
考えの明確化（表出・確認）	自分の考えや方法を表出したり、友達の考えや方法を知ったりして、自分の考えをはっきりさせる。	対話的な学びのための視点をはっきりさせることができたか。 ・インプットされたことを アウトプット することができたか。 ・ 相互評価 により正しい知識・技能の習得できたか。 ・考えを引き出す 順序 や提示の仕方を工夫したか。 ・考えを 分類 し、考えの違いを明確にできたか。 ・考えの 根拠 をもたせられたか。 ・考えを 比較 しやすくする発問や板書の工夫があったか。	
考えを高める（広める・深める）	自分と他の考えや方法を比較してよりよい解決をする。 自分と他の考えや方法を結び付けて、考える。	友達の考えやその理由を聞き、自分の考えと比較し、課題解決のために思考・判断・表現させる手立てがあるか。 ・自分と他の考えや方法のよさや特徴が実感できるような 発問（関係性・比較など） や 場の工夫 をすることができたか。 ・自分と他の考えや方法を比較させるような 場の工夫 や よりよい解決を促す発問 ができたか。 ・ 繰り返す ことで、確実な定着を図ることができたか。	
まとめ	考えの高まりを自覚し、高まった考えを使ってまとめや振り返りをする。	高まった考えを確かめ合い、文章にまとめることができたか。 ・ 課題と正対 したまとめになっていたか。 ・自分の達成度、理解度を判断し、学びの振り返りと変容の自覚を 振り返り に書くことができたか。	まとめ 振り返り

この内野プランにおいて、どの学習過程において、どのように新聞活用を行え

ば、かわりを生み出す上で有効であるか、実践を積み重ねながら検証していく。

3 本年度実践の概要

(1) 一人一実践の授業研究

校内研修計画に基づき、全教員が新聞を活用した授業実践を行った。学年部をチームとし、様々な教科において実践が行われた。

学年・教科・単元	新聞活用の方法
1 年 ・国語「ものの名まえ」	・新聞から切り取った様々な写真を提示し、それらを分類させる活動を通し、上位語と下位語の使い方を理解させた。 ・お気に入りの新聞記事を選び、友達同士質問をし合う活動を行った。
・国語「ともだちのこと、しらせよう」	・新聞記事の中からカタカナの言葉を探し、仲間分けをした。
・国語「カタカナを見つけよう」	・新1年生に学校のことを紹介するための新聞づくりを行った。
・生活「よんでね！ロケットしんぶん」	
2 年 ・生活「つながる広がるわたしの生活」	・町探検の記事を書くために、新聞記事を読んで見出しの内容や付け方について学び、新聞に書いて表現した。
3 年 ・国語「短歌を楽しもう」	・新聞記事を読み、そこに書かれていることをもとにして短歌を作り、友達と作った短歌を紹介し合った。 ・交通安全運動の記事を提示し、警察が事故を防ぐために取り組んでいることを学んだ。
・社会「事故や事件からまちを守る」	・学級会の中で、「一つの目標に向けて取り組む大切さ」について書かれた記事を提示し、新たな価値観に気付かせた。
・学活「あきのあめパワーアップ大作戦！」	
4 年 ・社会「昔から今へと続くまちづくり」	・新川が何度も改修工事を行い、水害を防いだことを記事で読み取らせ、学習に対する理解を深めた。
・音楽「地域に伝わる音楽に親しもう」	・郷土芸能の保存会の取組について書かれた記事を読み、その願いや思いを感じ取った。
5 年 ・社会「日本の工業生産の今と未来」	・燕三条の中小工場が、工業を発展させるために取り組んでいることについての記事を提示し、工業に携わる人々の工夫や努力を学んだ。

6 年 ・国語「これからの社会について考えよう」 ・道徳「人権について考えよう」	・情報化が進むこれからの社会の見通しについて書かれた 2 社の新聞を「内容」「構成」「表現」の観点で読み比べ、自分の考えをもった。 ・タブレットを活用し、電子新聞のいじめについての特集記事の中から、気になった記事を見つけてグループで話し合いを行った。
さくら（特別支援） ・自立活動「すごろく作り」	・すごろくのイベントマスに、新聞の記事にある写真を選んで活用した。
・自立活動「ハロウィンを楽しもう」	・新聞記事や写真を見て、ハロウィンで着たい衣装を作るための具体的なイメージをもたせた。
・国語「熟語の意味」	・新聞記事を読み、熟語を探す活動を行った。
・社会「身近な暮らしについて考えよう」	・新聞記事を読み、消費税が必要かどうかを考え、話し合った。
・図工「マイタワーを作ろう」	・新聞の写真を導入に用い、作りたいタワーのイメージをもたせた。

（２）N I E タイムの実施

新聞活用と言っても、取り入れてすぐに活用できるものではない。しっかりと記事を読み取る力をつけていくためには、継続的な取組が不可欠である。

そこで、年間を通し、週 1 回程度新聞に触れる学習を N I E タイムと位置づけた。そして、各学年の発達段階に応じ、取り組み方を工夫しながら実践してきた。継続した取組により、子どもたちの新聞活用能力は向上してきている。

学年	N I E タイムの内容
2 年	○小学生新聞「6 才からのニュース」の記事を用い、プリントを作成して活動。 ・習った漢字探し ・カタカナ探し ・記事を読んで見出しを考える。 ・3 つの記事から興味をもった記事を選び、その理由を書く。
3 年	○プリントを作成し、記事の読み取りを行う。 ・「だれが、何のために、何をした」を中心に読み取る。
4 年	○気になる記事紹介 ・自分が最も気になった記事を選び、記事と理由を友達に紹介。 ○日報抄の視写&クイズ ・新潟日報の日報抄の視写を行う。教師が作成したクイズに答える。
5 年 6 年	○よみとき新聞ワークシート ・理想科学工業が配信している「よみとき新聞ワークシート」を実施。「5 W 1 H」を読み取り、自分の感想や意見を書く。

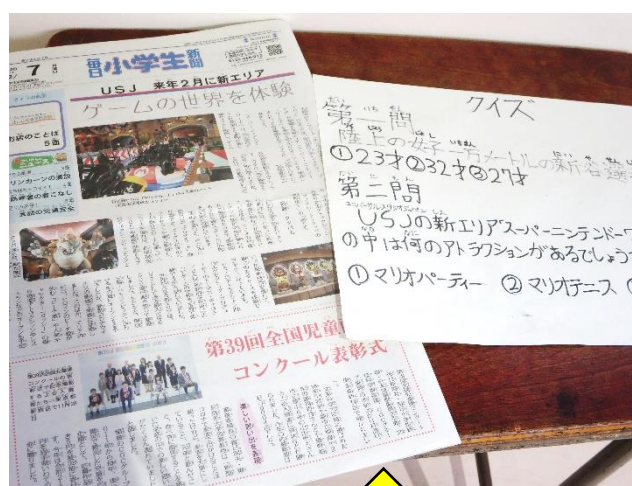


(3) 新聞に親しむ環境づくり



① 新聞閲覧コーナーの設置

渡り廊下に新聞閲覧台を設置した。子どもたちは、通りすがりに興味のある記事を眺めている。日常的に新聞にふれる機会が多くなってきている。



② 新聞クイズの作成

情報委員会の子どもたちが、小学生新聞の内容をもとにしたクイズを作成している。内容も分かりやすく、子どもたちに好評である。



③ にいがた学校ニュース! の作成

新聞記事の中から、主に新潟県内の小学校の記事を集めて、図書委員会が作成している。県内の小学校では、どんな学習が行われているのかを紹介し、その記事に関する感想も載せている。

これらの環境づくりに取り組むことで、子どもたちの新聞に対する興味関心は高くなってきている。

今後も、このような環境づくりを行っていくことにより、子どもたちが新聞に触れる機会を増やしていきたい。



4 実践例

(1) 3年 社会科

単元名「事故や事件からまちを守る」

(2) ねらい

警察の仕事について、新聞記事を使って調べることを通して、地域の安全を守るために仕事をしていることを捉えることができる。

(3) 本時の手立て

①新聞記事を2つの観点で整理して、内容を読み取らせる。

警察の仕事についての記事を読む際に、「だれのために、どんな目的で」の2つの観点で記事の内容を整理して読ませる。そうすることで、新聞記事から必要な情報をすばやく読み取ることができると考えられる。

②グループごとに異なった内容の新聞記事を与える。

本時では複数の記事を扱い、多面的な考えを子どもたちから引き出したい。そこで、内容把握の時間を短縮するためにグループごとに異なった内容の新聞記事を読ませ、共有することを試みる。

(4) 授業の実際

子どもたちは、新潟市の事件と事故の発生件数のグラフを見て、どちらも件数が減ってきていることに気付いた。そこで、「なぜ、事故や事件が減っているのか」を学習課題にして学習を進めた。

その後、各グループに異なる新聞記事が配布され、記事の読み取りを行った。子どもたちは、「だれのために、どんな目的で」の2つの観点でしっかりと記事の内容を読み取っていた。以下、子どもたちが記述したワークシートである。

 ②だれに かめ代ハのじむに ③どんな目きで ふしん者から身を 守るために ③何をしたか ぼうはんきょうしつ 防犯教室を開いた。	 ②だれに 親子に ③どんな目きで 110番っうほうの 仕組みや正しい方法 も知ってもらうために ③何をしたか ぼうはん 防犯イベントを開いた。	 ②だれに ちいさな子どもに ③どんな目きで 交通安全について深く 学ぶため ③何をしたか 交通安全イベントを開 いた。	 ②だれに ようちえんじ ③どんな目きで 正しい交通 ルールを学んで もらうために ③何をしたか おうだんほどう わた 横断歩道の渡り方を 教えた。
--	--	---	--

記事Aの
ワークシート

記事Bの
ワークシート

記事Cの
ワークシート

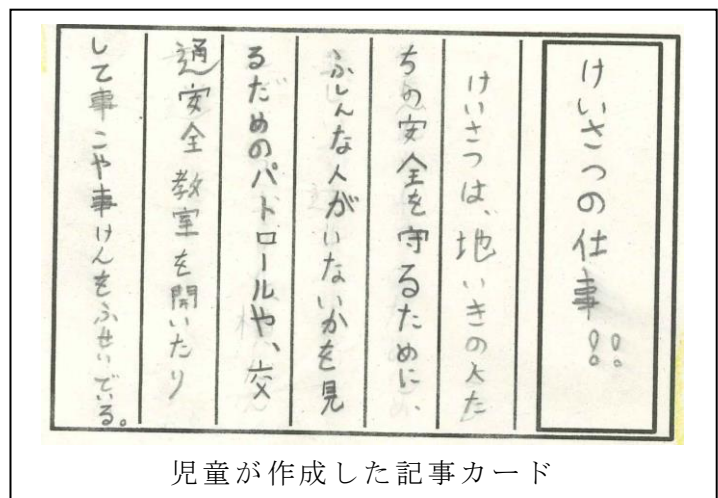
記事Dの
ワークシート

そして、それらの4つの取組を「事故を防ぐ取組」と「事件を防ぐ取組」に分類した。子どもたちは、新聞記事の読み取りや取組の分類を通して、「警察は、地域の人々の安全を守るために、様々な仕事をしている」ということを学び取ることができた。

最後に、本時のふり返しとして、単元を通して作成している警察新聞の記事カードを書いた。本時の評価規準は以下の通りである。

- A…警察の仕事について、具体例を挙げながら、その目的を新聞記事にまとめることができる。
- B…警察の仕事について、その目的を新聞記事にまとめることができる。

子どもたちのカードを評価すると、A評価が13人／29人(44.8%)
B評価が16人／29人(55.2%)であった。この結果より、本時の手立ては有効であったと捉える。



児童が作成した記事カード

(5) 手立ての有効性について

①新聞記事を2つの観点で整理して、内容を読み取らせる。

- ◎有効であった。観点が定まっていた、整理しやすかった。
- ◎記事を短くして提示したことがとても良かった。読み取りやすくなった。
- ◎アンダーラインを引きながら読むという継続した取組がよい。
- ▲子どもたちが読み取りたい情報と、教師が読み取らせたいことに少しずれがあった。
- ▲「何をしたか」も読み取らせると良かった。その上で、「それをやっているのはなぜか？」と問うことで、よりねらいに迫れたのではないか。

②グループごとに異なった内容の新聞記事を与える。

- ◎一人で4つの記事を読み取ることは難しいので、効率的であった。
- ◎4つの記事があることによって、内容を詳しく理解できた。
- ◎記事が異なっても読み取りの観点が同じであり、共通理解しやすかった。
- ▲読み取りはできたが、考えは深まったのか？写真と見出しだけを見せ、何のためにしているのか考えさせるなど、実生活と結び付けて考えるような

手立てが有効だったのでは。

▲グループで1つの記事しか読んでいないので、N I Eで付けたい力が本当に身に付いていたのか。

③指導者（県N I Eアドバイザー：上所小 牛腸 昌克 様）によるご指導

- ・3つの観点で内容を整理し、記事を読み取らせていることは良い。
- ・グループでの活動は、ミッションを与え、調べる責任をもたせるとよい。
- ・グループごとに違う新聞を読み取ったら、「共通することは何か」を考えさせ、具体（新聞記事）から一般化することが重要である。
- ・取り扱った記事の中には、区役所や安全協会が主催であり、警察が主催していない事業が含まれていた。主語のずれがないようにする。
- ・自分たちにできることを構想させる。自分たちのこととしてつなげるための身近な新聞記事を用いるとよい。

事について

新聞写真		
②だれに	ようちんじ	せいの子ども
③どんな目	正しい交通	交通安全に
きで	ルールを学ぶ	ついて楽しく
	もううため	学ぶため
③何をしたか	横断歩道の渡り方	交通安全イベント
	を教えた。	を開いた。

事けんについて

新聞写真		
②だれに	親見子	車代トの児童
③どんな目	10番うほう	ふん者から
きで	の仕組みや	身を守るため
	正しい方法を	矢のてもううため
③何をしたか	ぼうはん	防犯イベントを
	開いた。	防犯教室を開いた

学習課題

なぜ、事こや事けんがへっているのか。

見出し 記事を言えるポイント

①だれが ... けいさつが

②だれに

③どんな目きで、何をしたか

書いてある。

まとめ

けいさつは、せいの人の安全を守る仕事をしているから。

振り返り

① ②

わかったこと

けいさつの仕事

5 成果

今年度1年目の研修は、ほとんどの職員がN I E実践をしたことがなく、手探りの状態からのスタートであった。「どのように記事を扱えばいいのか?」「低学年でも本当に実践できるのか?」などの疑問だらけだったが、1～6年全ての学年で新聞を活用した授業を実践することができた。また、特別支援学級においても、積極的にN I E実践に取り組んでもらえたことには大きな価値があると感じている。「やればできる」という大きな可能性と手応えを感じた。

新聞記事には、教材としての大きな可能性があるが、それをそのまま扱ってもしなかなかうまくいかないことも実践を積み重ねて分かってきた。「記事を絞り込む」「必要な部分のみ提示する」「見出しや写真に着目させる」「必要に応じて補足説明を加える」「読み取りの観点を示す」など、記事の提示の仕方や教師の指示に一工夫することで、子どもたちが自分の力で記事を読み取ることができると

分かったのは、今年度実践してみて明らかになった成果である。

内野プラン（授業フレームワーク）に当てはめると、新聞を活用することは、「課題把握」「自力解決」「考えの明確化」「考えを高める」のどの学習過程においても有効性があることがはっきりしてきた。今後は、どの学習過程において新聞を活用すると最も大きな効果があるのか、またそのためにはどのような手立てが必要かなど、今年度の成果を生かしながら研究を進めていきたい。

（渡邊 裕矢）